




論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者 大森 良彦	
論文担当者	主査 池田 正孝 
	副査 坂口 大一 
	副査 坂口 淳一 
学位論文名	Impact of the Coronavirus Disease 2019 Pandemic on Medical
	Practices in Awaji Island.
	(新型コロナウイルス感染症パンデミックによる淡路島の医療
	現場への影響)
論文審査の結果の要旨	
<p>新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)は医療現場に重大な影響を与えている。パンデミックにより淡路島の感染指定病院である兵庫県立淡路医療センターの医療現場がどのような影響を受けたかを評価した。対象期間をパンデミック前 (2016/1 から 2019/12) とパンデミック中 (2020/1 から 2022/12) とし、疫学的特徴 (COVID-19 感染率の推移、一般外来、救急外来、入院患者数の変化) に関する調査を実施。常勤医の勤務実態 (超過勤務時間、有給休暇取得日数の変化) を調査し、アンケート調査 (勤務時間、睡眠時間) を実施。淡路島の COVID-19 感染率ピークは、日本全体や兵庫県全域のものと同期していたが、感染率は低かった。パンデミック中の一般外来、救急外来患者数、入院患者数はいずれもパンデミック前と比較し減少した。パンデミック中の勤務実態は超過勤務時間の減少、有給休暇取得日数の増加を認めた。アンケートでは、パンデミック中の勤務時間、睡眠時間に変化がなかった。淡路島の感染率が低かった背景として、社会的規制による淡路島への人口流入の減少、島民の外出抑制が考えられ、一般・救急外来患者減少は、患者の受診控えが考えられた。入院患者数が減少は、外来患者数の減少と入院診療制限などが考えられた。また、COVID-19 入院患者増加に伴う専用隔離病棟の設置は一般病床・集中治療室をひっ迫し、他疾患患者の入院診療が制限された。将来未知の新興感染症に備え、パンデミックの影響を受けにくい医療体制を構築する必要がある。一方、医師へのアンケート調査結果から、一般診療の制限に伴い、超過勤務時間の減少と有給休暇取得日数の増加につながったと考えられた。今後の医療体制構築に関して重要な知見であり学位論文に値すると判断した。</p>	